

スポーツ・健康科学専攻

Sports and Health Sciences

埼玉東松山キャンパス

修士課程

「スポーツ科学」・「健康科学」を横断的に学び、異なる分野の特論および演習を履修することにより、総合的視野と専門的洞察力を身につける

本専攻において教育研究の柱となる分野は、「スポーツ科学」及び「健康科学」の2つの分野ですが、院生は所属する分野以外の関連科目を10単位以上履修することができます。このように院生は異なる分野の特論および演習を履修することで所属分野の知識をより深化させることが可能となり、分野を横断した総合的視野と専門的洞察力を修得できます。

また、科学研究に取り組むうえで基本となる原則や倫理手続き、そして研究計画書の作成から修士論文執筆までの指針となる研究過程の概要を理解させるための共通科目「スポーツ・健康科学研究法」を配置しています。

さらに、本専攻では、科目全般において議論が活発に行えるような授業展開を推進し、研究計画書や報告書作成に対する議論および相互評価（ディベート）が可能なグループ演習を重要視し、学生には招聘した研究者による講演、研究会等を授業の一環として受講させることで最新の知見を修得させています。

学位取得論文

- 陸上短距離選手における等速性股関節屈曲・伸展筋力のトレーニング効果について
- 女子競技参加資格における競技の公平性とルールあり方に関する研究
- イミダゾールジペプチド摂取が有酸素運動中脂質代謝に及ぼす影響
- 東京箱根間往復大学駅伝競走における選手選考の評価指標に関する研究
- 線虫の長寿命変異体における寿命と酸素消費量の関係
- ヒト癌細胞株におけるγ-グルタミルトランスペプチターゼの癌特異的経路の病理分子学的検討
- 若年者の顔面皮膚色素沈着と食事・環境調査
- 乳がん検診の受検行動と関連因子の検討

Student Voice



スポーツ・健康科学専攻
修士課程2年

松本 日向さん

大東文化大学
スポーツ・健康科学部健康科学科卒

新規性のある研究に取り組めたことは大きなやりがい

学部時代にお世話になったゼミの教授のもとで、卒業論文で取り組んだテーマをさらに深めたいと考え、本学大学院への進学を決めました。本学は自分の裁量で研究を進められる環境があり、主体性を持って取り組める点が魅力だと感じています。食生活と肌のシミの関連をテーマに研究を進め、これまで曖昧に語られてきたシミの初発年齢について一定の示唆を得ることができました。また、年齢層によって食習慣に基づく影響の現れ方が異なる可能性が見えてきたのも成果の一つです。科研費をいただいているテーマでもあり、新規性のある研究に取り組めたことは大きなやりがいを感じるものでした。こうした研究を通して、計画を立てて物事を進める力や、正解のない問いに向き合い続ける力が身についたと感じています。今後も未知の課題に対して臆せず取り組む姿勢を大切にしていきたいです。

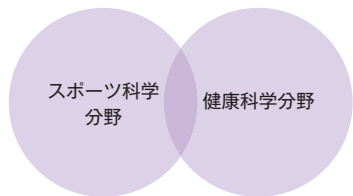
学びの特長

スポーツ科学分野の高度な専門的知識をもつ教員や指導者、医療分野で予防医学を修得した専門的職業人を育成します。

【Web サイト】
スポーツ・健康科学研究科
スポーツ・健康科学専攻
https://www.daito.ac.jp/education/
graduate_school/department/
sports_health_science/outline.html



学べる領域の図



スポーツ・健康科学専攻 専任教員

※2027年度における研究指導の可否については、「2027年度大学院入学試験要項」を確認してください。

伊藤 直子 博士（老年学）／教授 老年学、地域・在宅看護学、高齢者看護学	修士	地域で暮らす高齢者の健康づくりの方策を探り、実践的なアプローチを研究しています。	勝又 宏 Ph.D. in Kinesiology ／教授 運動制御・運動学習科学	修士	人間が動作をコントロールする、上達する仕組みについて、力学・神経生理学・心理学の観点から研究します。
蕪木 智子 博士（学術）／教授 栄養学、栄養生理学	修士	栄養成分や栄養状態が生体に及ぼす作用を研究し、生活習慣病予防やスポーツ現場のコンディショニング支援に結びつく知見の提供を目指し研究しています。	川本 竜史 博士（学術）／教授 スポーツバイオメカニクス	修士	最新鋭の科学的機材を駆使して、スポーツ選手の動作を解析し、競技力の向上に役立てます。
小出 高義 修士（教育学）／教授 体育科教育、武道教育	修士	スポーツにおける教育はどうあるべきか、スポーツと教育の両面から、その望ましいアプローチについて研究していきます。	後藤 孝也 博士（医学）／教授 細胞生理、細胞内情報伝達、がん細胞学	修士	病体病因を細胞、遺伝子レベルで解析し、なぜ病気が起こるのかを明らかにすること、そしてその治療や治療薬開発へつながる研究をしています。
坂口 由紀子 博士（看護学）・修士（保健学）／教授 小児看護学、小児保健	修士	希少疾患を持つ子どもと家族の在宅療養におけるニーズと支援の課題について研究しています。	杉森 裕樹 博士（医学）、修士（臨床疫学）／教授 予防医学・疫学・公衆衛生学	修士	メタボリックシンドロームなどの生活習慣病をどうしたら予防できるか？真面目に科学しています。
田中 博史 博士（医学）／教授 スポーツ心理学・コーチング科学 （バレーボール）	修士	競技スポーツや健康増進スポーツにおける実施者および指導者の心理的諸事について研究します。	日野 るみ 博士（医学）／教授 病理学	修士	病理形態学的アプローチに加え、分子生物学的手法を用いて癌の成因・病態について明らかにしていきます。
平尾 磨樹 Ph.D. in Chemistry, 学士（医学）／教授 スポーツ医学、健康づくりの運動生理学	修士	多様な運動実践（ゴルフ等）でストレス軽減や認知症予防、柔軟性向上やケガ予防をめざし、健康長寿・アンチエイジングにつながる運動法を研究します。	福島 洋一 博士（医学）、修士（農学）／教授 食と健康科学	修士	食品成分（ポリフェノール、カフェイン、カロテノイドなど）のデータベース構築、食事を含む生活習慣と健康との関連の研究や食品の開発を行っています。
本間 俊行 博士（医学）／教授 運動生理学、競技パフォーマンス分析	修士	筋エネルギー代謝およびパフォーマンスの向上、トレーニング方法の検証等について研究しています。	水野 千奈津 博士（工学）、修士（看護学）／教授 ウィメンズヘルス学	修士	女性の生涯を通じた健康課題を明らかにしウェルネスな状態へ導く解決手法を探索しています。
宮城 修 博士（体育学）／教授 スポーツ生理学、トレーニング生理学	修士	スポーツ・トレーニング活動中の生理学的応答、身体組成とウエイトコントロール、アスリートの体力的特徴について研究しています。	宮本 正秀 修士（文学）／教授 イギリス文学、ヨーロッパ文化史	修士	17世紀英国の文学作品、科学者や医師の著作を読み、近代的自然観が確立される過程を研究しています。
森 浩寿 修士（教育学）／教授 スポーツ法学、スポーツ政策学	修士	差別、ドーピング、選手契約、事故の法的責任といったスポーツに関連する法的問題を取りあげています。	築瀬 澄乃 博士（医学）、修士（理学）／教授 放射線生物学、基礎老化学、分子生物学	修士	生物が老化する仕組みについて、実験動物を用いて探るとともに、抗老化に役立つ物質の探索を行っています。
湯浅 康弘 博士（スポーツ健康科学）／准教授 トレーニング科学	修士	競技向上を目的としたウエイトトレーニングおよびコンディショニングトレーニングについて研究しています。			